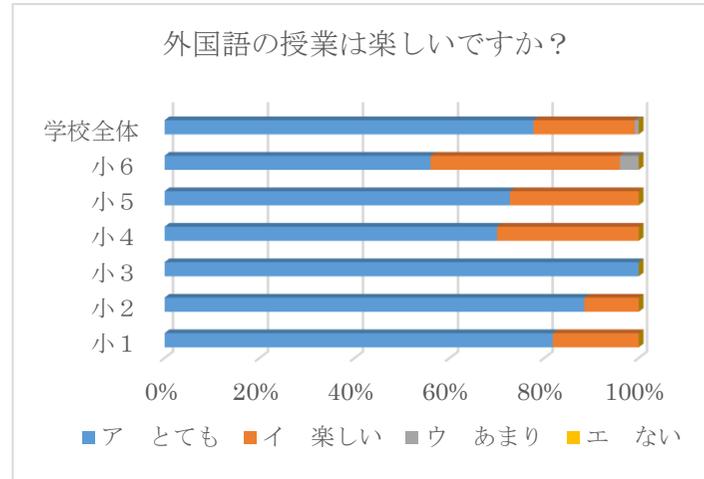
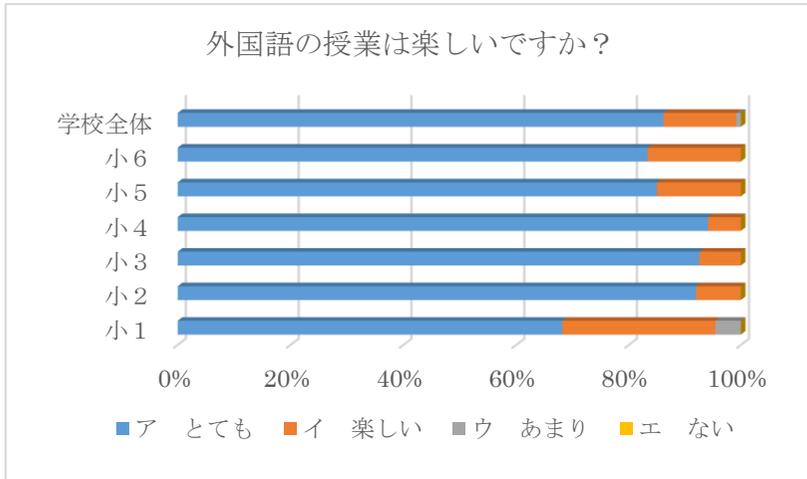


令和5年度 外国語に関する調査 (R5.12月実施)と考察 ※令和4年度は令和4年12月に実施

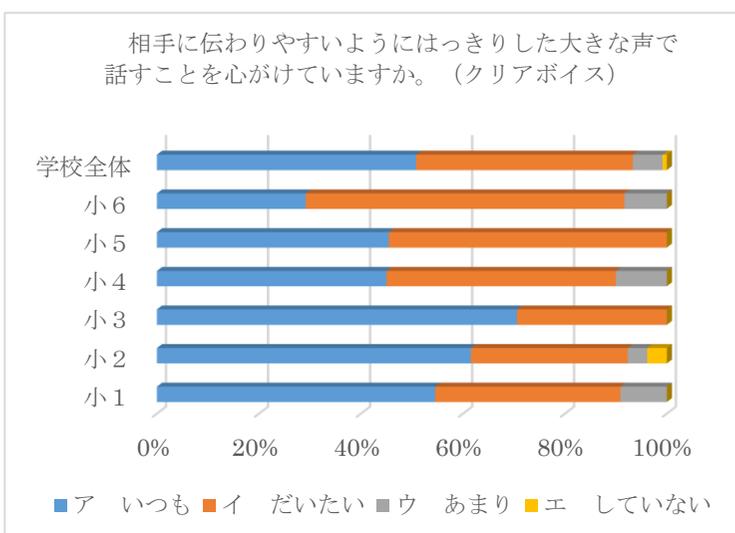
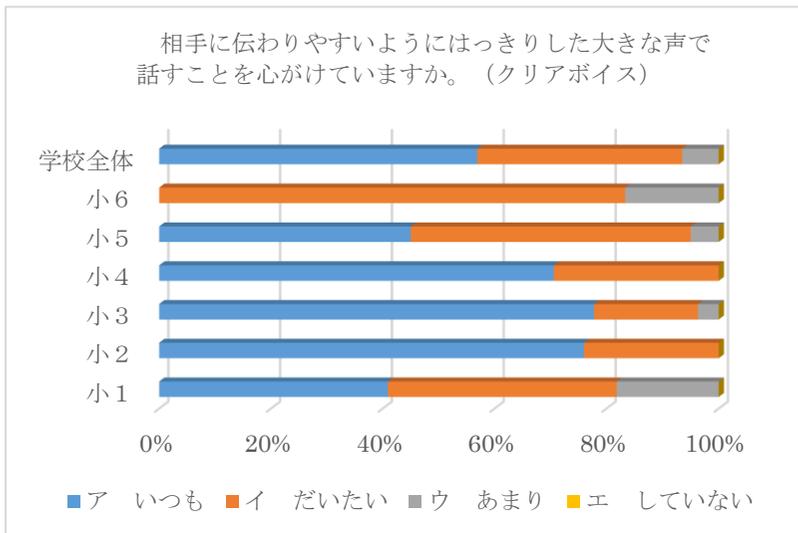
【R5年度】

【R4年度】



【考察】

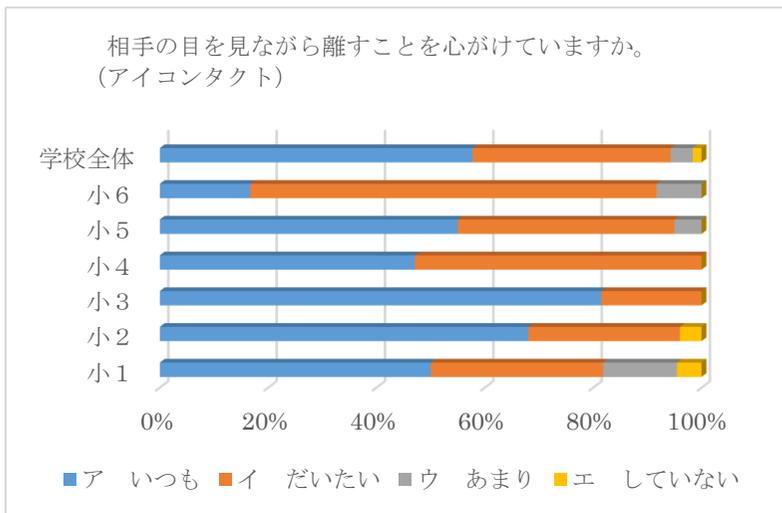
外国語の授業を9割以上の児童がプラス傾向の評価をしている。昨年度に比べ、学校全体としても「とても好き」という割合が増加し、年々、児童の興味・関心は高まっている。



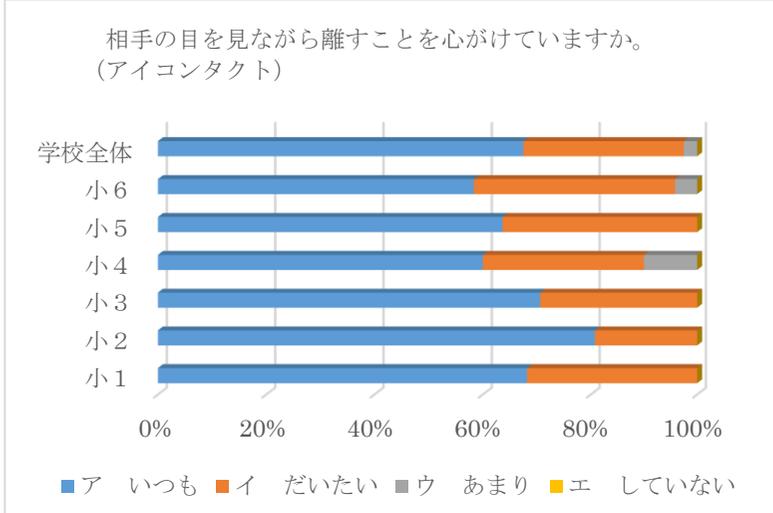
【考察】

学校全体としては、9割程度の児童が、はっきりした大きな声で話をしてしていると回答している。一方、昨年度に比べ、第6学年においてはマイナス傾向の評価の割合が増加し、発達段階に応じて、英語による積極的な対話を意図した学習活動を位置付けていく必要がある。

【R5年度】

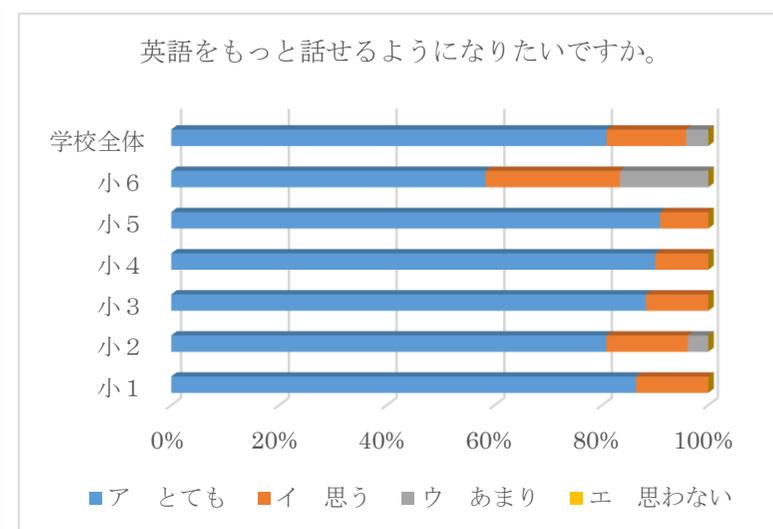
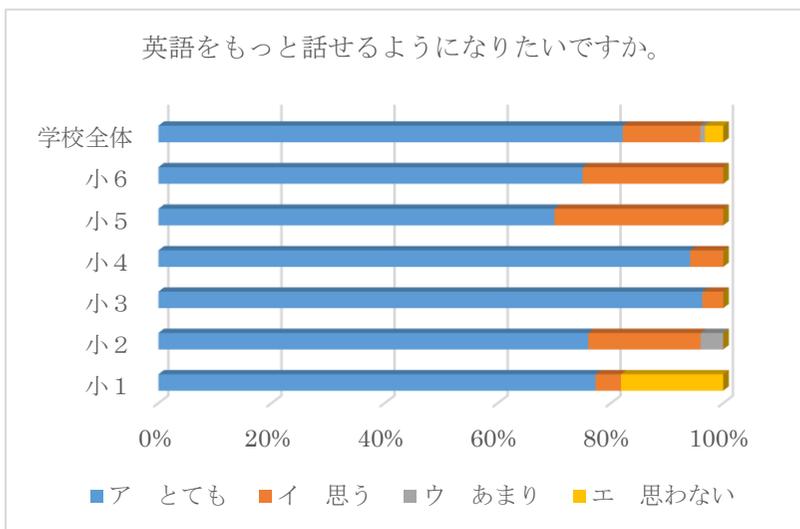


【R4年度】



【考察】

学校全体としては、9割程度の児童が、プラス傾向の評価であるが、昨年度に比べ、低学年においてはマイナス傾向の評価が確認され、相手意識を高めながら対話活動に取り組んでいく必要がある。

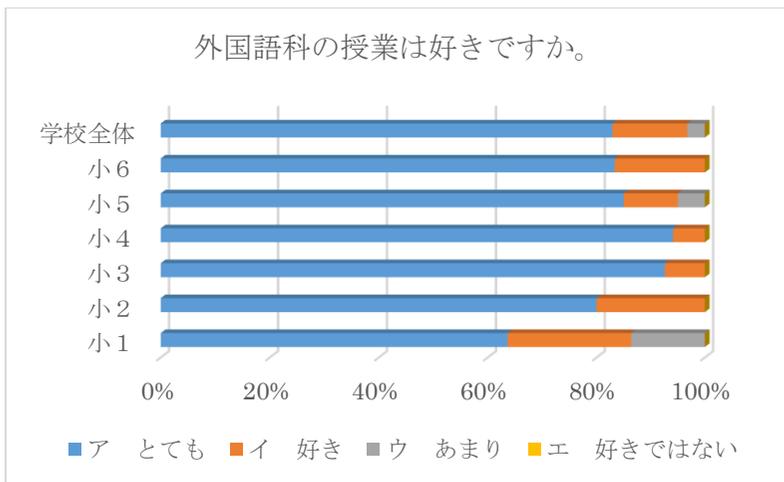


【考察】

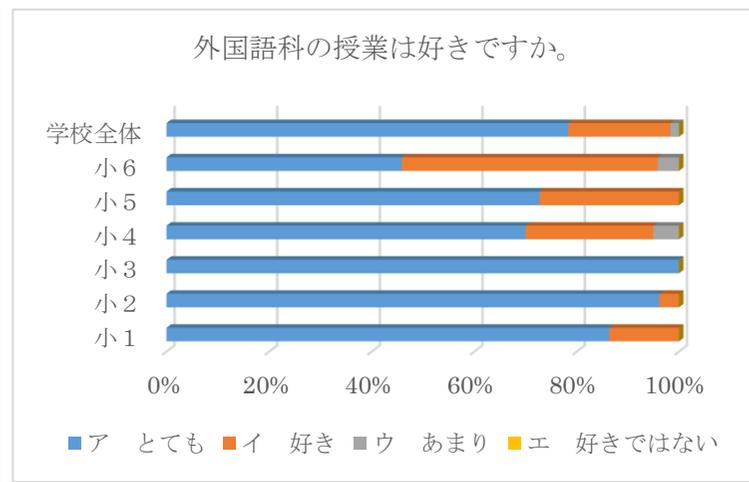
昨年度に比べ、学年によってはマイナス傾向の評価が増加した。このことから、英語を使ってみたくなるような単元構成や授業づくりの工夫が必要であると考えられる。

特に、低学年ではALTの効果的な活用を図っていききたい。

【R5年度】

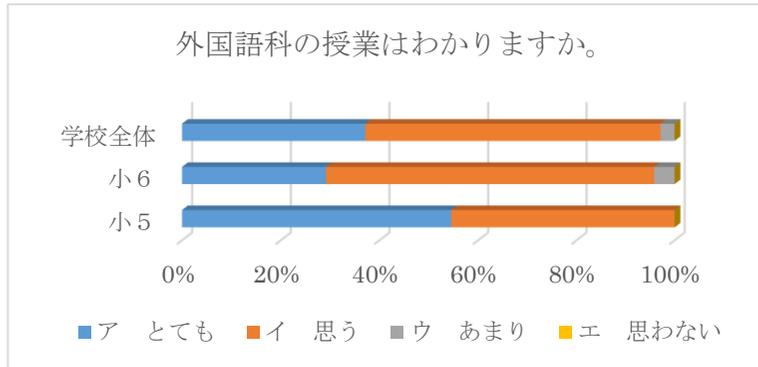
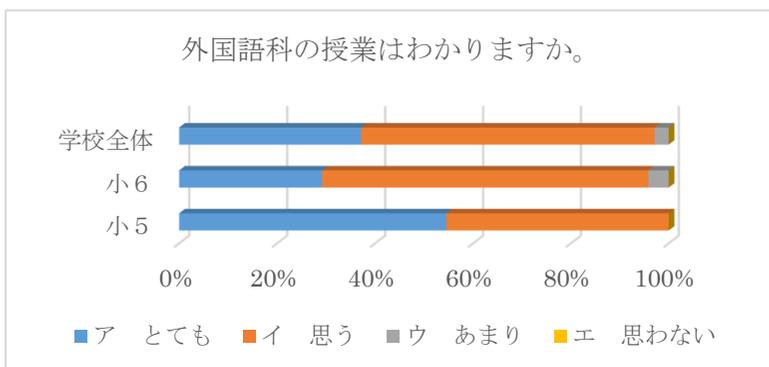


【R4年度】



【考察】

全体的に、外国語の授業を楽しみにしている児童の割合が高い。しかし、昨年度に比べ、マイナス傾向の回答をする児童数が増加した学年もあり、今後も、一人一人を大切に授業づくりに取り組んでいきたい。



【考察】

昨年度とほぼ同様の評価であった。今後も、尚一層、英語専科による授業の充実、ALTとの連携を基に、一人一人にとって分かりやすい授業づくりに努めていきたい。

【保護者・学校関係者からの感想】

- 英語専科の先生から、専門的に英語を教えてもらい、子どもたちが楽しく学ばせていただいている。
- 外国語の授業において、リスニングの時間をできる限り増やしていただけるとありがたい。
- 低学年時から、流暢な英語を聞いたり、ALT(外国人)に話したりできる学習環境が整っていることがとてもよいと思う。